

ノーミスの演技目指す／新体操で全中出場の遺愛

◎ 2018年8月15日 3時00分



昨年に続き、全国中体連大会の新体操女子団体に出場する遺愛

 [掲載写真を購入](#)

18日から島根県松江市で行われる全国中体連大会の新体操の女子団体に、道代表として遺愛が出場する。昨年に続く2年連続の全国大会出場となり、団体戦でリーダーを務める石山琴葉（3年）は「持てる力を最大限発揮して、ノーミスで演技したい」と大舞台へ向けて意気込む。

昨年、全国初出場を果たした3年生引退後、メンバーが4人に。団体（5人）出場が危ぶまれたが、今年4月に1年生2人の入部で望みがつながった。2人とも新体操未経験ながら、厳しい練習を乗り越え、6月の市中体連大会に出場。しかし、顧問の下元教諭は「5月に演技構成が決まったばかり。なんとか出場できたが、ミスの連発だった」と振り返る。

放課後や日曜、ステップや手足の先まで意識して合わせた練習を重ねて上達。石山は「つらい練習もあった。1年生も頑張ってくれてくれた。全道ではミスもあった

けど最後まで楽しく演技できた」と評価した。

地区大会の反省から、より精度を高めて臨んだ道大会では、2チームのみの出場だったが、市中体連大会（7月）の3・350点を大きく上回る8・200点をマークした。

団体競技はクラブ10で出場する。一人2本の手具「クラブ」を持ってテンポの良い曲に合わせ、クラブの技術や踊りや関係技を繰り出す構成。特に後半はクラブを同時に投げ渡すなど、難易度の高い技も取り入れている。最後にはクラブをつなげて見ごたえある演技も特徴で、成功すれば道大会以上の得点も期待できる。

全国大会では、クラブの落下が勝負を分ける。石山リーダーは「チームのいいところは集中力。ミスした箇所ができるようになって何度でも続ける」と言い切り、納得がいく演技を追い求めてノーミスを目指す。

石山は「足先がきれいな吉田明（3年）や体操経験がある武山佳苗（2年）、柔軟性がある中野夢都（●みく、同）、一生懸命練習している佐々木南と長俣寿（1年）の6人みんなが持っている個性を発揮できればきっといい演技ができる」と力を込めた。

メンバーは次の通り。

▽監督

下元 京子

▽外部指導者

曾我 結花

▽選手

石山 琴葉 3年

吉田 明 3年

武山 佳苗 2年

中野 夢都 2年

佐々木 南 1年

長俣 寿 1年